

# 伝えていきたい。あのときのこと

塩竈の美しい風景を

忘れないように  
(asariさん・歌手)



塩竈在住。昨年1月に「塩竈桜」でCDデビュー。昨年10月に「恩送り」発売

震災時は、曲を作る気持ちになれず、もやもやと毎日を過ごしていました。わたしは、神社から干賀の浦を見下ろす景色が大好きなのですが、それすら失われてしまうのではないかと悲しい気持ちでいました。そんな状況の中で、わたしの心にある強い思いに気付きました。それは「塩竈が大好き」という思いでした。

海や、神社や、塩竈の美しい風景を、忘れないでいること、それが自分にできることだと思いました。そんな気持ちから作ったのが「塩竈桜」という曲です。昨年秋季にリリースした「恩送り」という曲には、心の中にある返しきれないほどの感謝の気持ちを、歌にのせて送りたいという思いが込められています。震災時にお世話になった方々へ、わたしは歌うことで「恩送り」ができればと思っています。

いろいろなところで歌う機会には、「塩竈の歌姫、asariです」と自己紹介して、「塩竈」も一緒に紹介しています。震災から時間がたち、

しだいに記憶も薄れていきがちですが、塩竈のことを伝えていくことが使命だと思っています。

「しおがまさいがいエフエム ベイウエーブ」の番組内で、ご当地ソングを制作しているのも、塩竈をアピールしたいという思いからです。復興への道のりはまだまだ険しく続くと思います。少しでもわたしの歌が、声が、塩竈の皆さんの笑顔に繋がればと願っています。



▲asariさんのCDは、CDショップで購入できます。ラジオは、ベイウエーブ (78.1FM) で毎週金曜日18:00~18:30

ありのままを伝えたい

(ひが 菜さん・漫画家)



塩竈在住。昨年3月11日に4コママンガ&エッセー「生き残ってました。」を出版。ブログや市のホームページ「クラシオ」に漫画を掲載中

被災体験をコミックエッセーにしたのは、震災直後にブログの読者の方から安否確認のメールをいただき

「大丈夫です。生き残ってました」とブログに書いたことがきっかけです。避難所での経験や帰宅後のこと知っていればよかったと思う情報(避難所の場所など)を残すことが自分のできることだと思いました。当時は、報道も災害の状況を伝えることが主軸で、毎日悲惨な映像がテレビや新聞に載っていました。それだけではない、読んでほっとするもの、塩竈で被災した主婦のありのままを伝えたいと強く感じました。読者の方からは、「わたしも同じような状況だった」「報道されない被災地のことがよくわかった」などの感想をいただきました。共感していただけると、うれしいです。



▲ひがさんの本は書店で購入できます 祥伝社黄金文庫(560円)

これからの防災を考えるための記録として

(NPO) みなとしほがま 三浦一泰さん

東日本大震災では本市も大変な被害を受けました。しかしマスコミや地元紙が出版した写真集などではほとんど記事になりませんでした。このため、高台にお住いの方々は市

内の被災状況が分からなかったそうです。また、時の経過と共に記憶の風化も始まり、観光客からは「塩竈では被害はなかったのですね」との声も聞かれるようになりました。そこで震災後1年半の昨年9月、本市の被災状況を正確に記録、伝承することを目的に、写真集を編集・出版することとしました。

市内を13地区に分け、まず地区の歴史を古地図や絵葉書などで紹介し、津波襲来時の状況などを多くの方からご提供いただいた写真で伝えていきます。また、復旧の歩みや過去の自然災害の状況なども収録しました。ある方からは「この一冊は『大堤防』に匹敵する力がある」との言葉をいただきました。また、被災家屋の解体が進んだため、「大震災直後の写真は、当時の町並みの記録となっている」との感想も寄せていただきました。

塩竈の海に面した市街地の大半は、明治以降の埋立地です。そして自然災害は繰り返し発生しています。そんな郷土の防災や地域開発を考える参考になれば幸いです。



▲NPOみなとしほがま発行「写真集 塩竈 東日本大震災の記録」は嶋屋書店、市役所売店などで販売しています(2,000円)